

学びの場の変更に係る 「段階的な検討の プロセス」の手引

～ 校内支援体制の更なる充実に向けて ～

資料集



令和6年1月

鹿児島県教育委員会

目 次

	ページ
資料① 授業におけるユニバーサルデザイン チェックリスト	1
資料② 新学年別知能検査(サポート学習支援システム)の分析と活用 ---	2~3
資料③ 知能検査等の活用	4
資料④ 児童生徒の障害の状態等に応じた指導の工夫	5~7
資料⑤ 「得意なこと, 苦手なこと」シートの使用方法について	8~13
資料⑥ 法的義務になった学校現場での「合理的配慮の提供」	14~17
資料⑦ 充実した合理的配慮の提供に向けて	18~23
資料⑧ LD・ADHD等気付きのためのチェックリスト	24~26
資料⑨ 特別支援教育支援員の効果的な活用について	27~28
資料⑩ 「障害児等療育支援事業」における『施設支援一般指導事業』について	29
資料⑪ 子供たちが主体的によりよく生きていく力を身に付けるために --	30~31
資料⑫ 自立活動の内容6区分27項目	32
資料⑬ 特別支援学校, 特別支援学級, 通級による指導の対象	33~34
資料⑭ 校内委員会等での検討シートについて	35~37
資料⑮ 「段階的な検討のプロセスの手引」を踏まえた校内委員会等での検討のまとめ	38~39
資料⑯ 全ての子供たちが笑顔で学校生活を送るために	40~41
資料⑰ 障害のある児童生徒等に対する早期からの一貫した支援について(通知) ----	42~48
資料⑱ 資料のQRコード	49~51

授業におけるユニバーサルデザイン チェックリスト

鹿児島県総合教育センター 特別支援教育研修課

項 目	評 価
授業の流れの工夫	
1 学習の準備や机上の整理など、授業のルールを明確にし、学校全体で統一している。	1 2 3 4
2 前時の学習を振り返るときに、児童生徒が答えやすい選択式の質問をしている。	1 2 3 4
3 導入で、フラッシュカードを声に出して読ませたり、短時間で終わらせる復習問題に取り組みせたりして、気持ちの切り替えを促したり、集中させたりする工夫をしている。	1 2 3 4
4 授業の流れを示したり、教科や単元に応じて授業の進め方を一定にしたりして、見通しをもたせている。	1 2 3 4
5 適宜、机間指導を行い、児童生徒のつまずきを把握したり、配慮が必要な児童生徒に対する指導・支援を行ったりしている。	1 2 3 4
教師の説明や指示の工夫	
6 説明や指示を簡潔にしたり、抽象的な言葉を少なくしたりして、分かりやすく話している。	1 2 3 4
7 「〇〇してはいけません。」ではなく、「〇〇しましょう。」のように、肯定的で具体的な指示をすることで、行動の内容を分かりやすく伝えている。	1 2 3 4
8 大事なことを伝える前に間をとったり、語調に変化を付けたりすることで、児童生徒の注意を促している。	1 2 3 4
9 言葉による説明や指示だけではなく、視覚的な情報も併せて提示している（図、写真・絵カード、文字カード等）。	1 2 3 4
10 児童生徒の発言や取組を肯定的に受け入れ、主体的・意欲的な授業への取組を促している。	1 2 3 4
11 適宜、発問や指名をすることで、児童生徒に適度な緊張感をもたせている。	1 2 3 4
提示の工夫	
12 授業に直接関係のない連絡事項等は小黒板を利用し、広く黒板を使えるようにしたり、黒板を常にきれいに拭いたりしている。	1 2 3 4
13 黒板周りの掲示物を精選したりカーテン等で隠したりして、黒板に注目しやすくしている。	1 2 3 4
14 文字の大きさや行間に配慮して書くとともに、チョークの色は主として白色や黄色を使って書いている。	1 2 3 4
15 大切な内容は、色で強調するだけではなく、アンダーラインを引いたり、枠で囲んだりしている。	1 2 3 4
16 めあてやまとめを書く場所を固定化したり、黒板を分割したりしている。	1 2 3 4
17 電子黒板やデジタル教科書など、ICTを活用し、必要に応じて拡大したり、注目すべき所を示したりしている。	1 2 3 4
18 学習で使うプリントやワークシートは、読みやすく書きやすいように工夫している。	1 2 3 4
活動の工夫	
19 児童生徒が見たり、聞いたりするだけではなく、実際に操作したりする活動を取り入れるなど、いろいろな感覚を使った活動を設定している。	1 2 3 4
20 児童生徒が主体的に活動できるように、座っている学習だけではなく、教材を配らせたり、グループやペア学習をしたりするなどの工夫を行っている。	1 2 3 4

1 行っていない 2 ほとんど行っていない 3 ほぼ行っている 4 行っている

新学年別知能検査（サポート学習支援システム）の分析と活用 資料②

- ① 子どもの知的個性を客観的に正しく把握できる。
- ② 学習指導の効果を確認するために「知能学力の相関」等ができる。
- ③ どんな学級集団か把握し、指導に生かせる。

知能偏差値 (ISS)

個人の知能を、集団の平均値からのずれを用いて相対的に示す
(平均：50)

学習ペースが「速い」「ふつう」「ゆっくり」と解釈する。

ISSが高い：大きなステップで学習する（まとまった教材の与え方）ことも可能

※ 効果的な**発展学習**への移行（友達に教える体験も有効）

ISSが低い：小さなステップ（スモールステップ）での学習が良い。

※ **基礎的学習**を十分にに行わせることが必要

（適宜補充指導→発展学習）
（具体的・体験的な学習、個別指導が向いている可能性あり）

知能指数 (IQ, DIQ)

ISSを「平均＝100」に換算した時の知能偏差値。「同年齢の集団の中でどの位置にあるか」を表す。

※ 個別式知能検査のIQやFIQと同じではない。

A式知能(偏差値) (抽象言語型)

言語的な素材を用いた学習活動が得意な学習スタイルを持つ。

B式知能(偏差値) (感覚運動型)

図形や絵画、記号といった**非言語的**な素材を用いた学習活動が得意。

AとBの差：**7ポイント以上**

統計学上完全に**差がある**といえる

→ **Aタイプ** or **Bタイプ**

何もない：バランスがとれている。

素材から見た知能の特徴

図形的素材

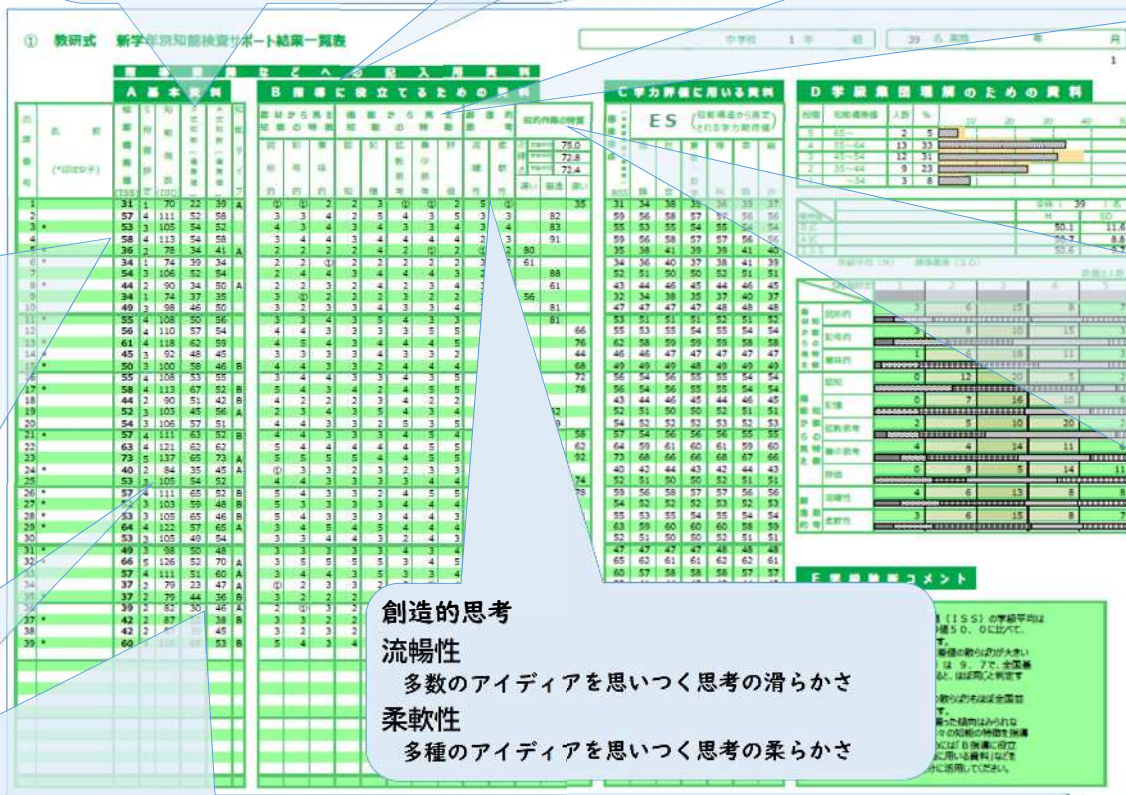
事物のもつ図形的特質（事物の大きさ・形・色・動き）を理解する。

記号的素材 [意味-記号化]

言語の表層にある記号的側面を作り出したり、理解したりする。

意味的素材 [記号-意味化]

学習素材の深層にある意味を理解する。



Aタイプ：言語的な説明を適宜加える、読書教材を用いる、などの指導に効果的

※ 視聴覚教材や図版を活用した学習場面では、じっくり取り組ませながら、教師が適宜言葉で説明する等の支援が必要。

Bタイプ：視聴覚教材を多用する、図版を効果的に活用する、機器等の操作や動きを伴った学習活動、などの指導が効果的

※ 言語的教材を用いた教材場面で、イメージ化させる等の適切な配慮が必要。

機能から見た知能の特徴

認知 (わかる・気づく)

↓：新しい知識を獲得する（事柄と事柄の関係）が分かる。

記憶 (おぼえる)

↓：獲得した知識を保存する。

拡散思考 (思いつく)

↓：問題を解決するための新しい発想に気づく。

集中思考 (筋道だてて考える)

↓：その発想に基づいて論理的に問題を解決する。

評価 (確かめる・決める)

↓：問題解決の過程等がある基準を満たしているかどうか判断する。

知的作業の特質

知的作業（頭を働かせる作業）を行う

時の特徴 → **速さと正確さ**

① 速くて正確

知的作業を速く正確にこなしていく特徴を持つ

② 遅くて正確

作業を速くするようにさせる必要がある。ただし、本人の改善意欲を引き出しながらの指導が大切。

③ 速くて不正確

スピードを多少セーブしても正確度を増すように指導していく必要がある。ただし、性格や情緒面での改善が必要とされる場合もあるので配慮を。

④ 遅くて不正確

問題を解く力が不足している場合が考えられること、検査に対する非協力的、あるいは教示内容を理解できないままに受検した等の要素もあり得るので、日ごろの観察結果も補充しながら指導を。また、基礎的・基本的事項をマスターさせること。

ES : 学力期待値。知能から推測される学力。(これくらいはできるはず。できてほしい学力)
 BSS : 学習基礎能力偏差値。学習面に特化した知能。「学習ペース」

① 数研式 新学年別知能検査サポート結果一覧表

学年: 39 名: 男 姓

表の構成: A 基本資料, B 遅れに立っているための資料, C 学力期待値に用いる資料, D 学習基礎能力偏差値のための資料, E 学習ペースコメント

ES (学力期待値) の注: 全国平均値は50.0。0以上(格差が大きい)は全国よりバラツキが大きい。7.7以下(格差が小さい)は全国よりバラツキが小さい。

「標準偏差」バラツキ SD
 12.0以上 (格差が大きい) : 全国よりバラツキが大きい
 7.7以下 (格差が小さい) : 全国よりバラツキが小さい

「学習ペース」「学習適性」に打ち出される H.M.L や A.B.a.b. 等の記号は、右の「学習ペースと学習特性」の表の記号と対応しているので、各記号の意味は理解して指導に生かす。

- 知的作業 (「IV課題解決スタイル」) から考える基本的な支援
 L5型(慎重・悠長・緩行・準性急・性急)への支援 (視点)
- なぜ遅いのか
 - 眼球運動, 短期記憶に課題? 集中できず遅くなる?
 - 手先が不器用で早くできない, 遅くなる?
 - 不安が強い, 間違えてないかと確認し過ぎて遅くなる?
 - こだわりがあって遅い? マイルールがあって早くできない?
 - 読み書きに課題があれば, 代替機器も検討する?
 - なぜ不正確なのか
 - 理解や記憶に課題。(聞くのが苦手。難しい。覚えるのが苦手。)
 - 集中力に課題。(落ち着きかない。面倒くさい。早く済ませたいケアレスミス多い)
 - 短期記憶に課題。(眼球運動, 聴覚的短期記憶が苦手)
 - 代替機器の活用で学習に集中できる? (読み書きに時間を取られない)

② 数研 サポート知能検査結果に基づく学習スタイル活用シート

1 学習一覧表: 学年, 学習スタイル (Aタイプ, バランスタイプ, Bタイプ), 学習ペース (H, M, L)

2 学習ペースと学習適性: 学習ペース (H, M, L) と学習適性 (A, B) の組み合わせ

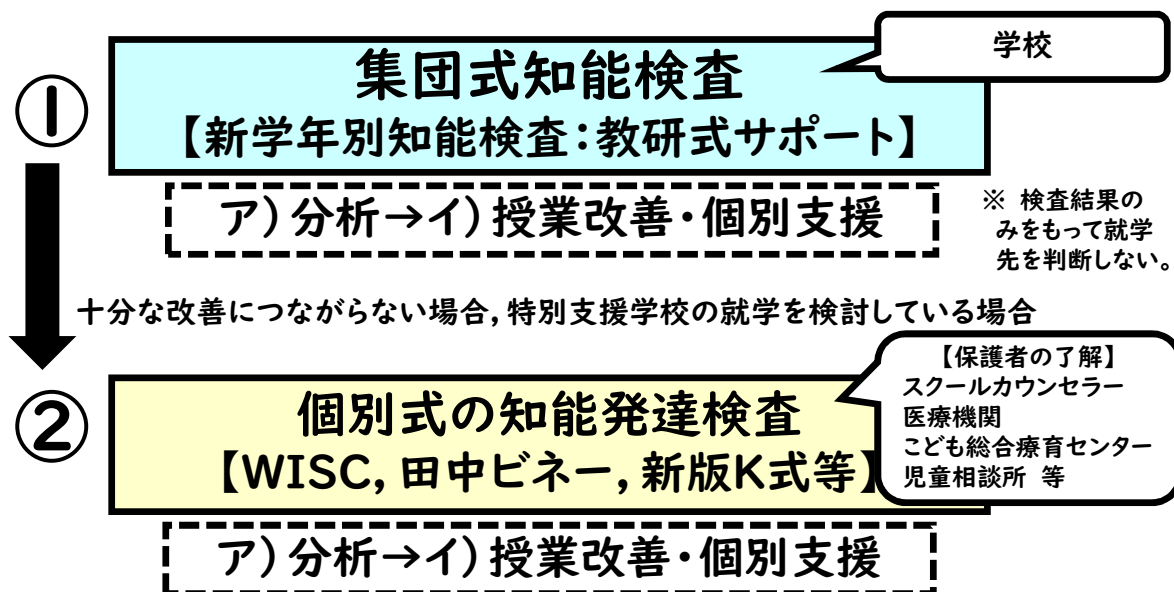
3 課題解決スタイル(知的作業の特長): 遅い (慎重型), 普通 (普通型), 速い (効率型)

【学習ペース】
 M: ミドル
 L: ロー (普通)
 H: ハイ

【学習適性】
 A: Aタイプ
 B: Bタイプ
 □: バランスタイプ

【学習ペースと学習適性】
 バランスタイプの「←」はAに近く, 「→」はBに近い

慎重型 遅い×正確 「正確にできているから, 安心してスピードを上げてみよう。」	着実型 普通×正確 「スピードを意識してやってみよう。」	効率型 速い×正確 課題が速く終わった時に退屈しないよう次の課題を用意。
悠長型 遅い×普通 「スピードを意識してやってみて」	普通型 普通×普通	迅速型 速い×普通 「スピードよりも正確さを気にして」
緩行型 遅い×不正確 「ゆっくりでいいから, まずは正確にやることを目標に」	準性急型 普通×不正確 「あわてずゆっくりやると, ミスも減るよ」	性急型 速い×不正確 「あわてんぼうだなあ。ゆっくり確認しながらやろう」



- ① まず、各学校等で行っている集団式知能検査（新学年別知能検査：教研式サポート）を分析し、授業改善や個別支援に取り組みましょう。

新学年別知能検査（教研式サポート）の知能偏差値（ISS）は学びの場を検討する資料の一つになりますので、校内委員会や就学教育相談会等に提出する用紙に記入します。ただし、その数値のみをもって学びの場の判断はできませんので留意が必要です。

- ② 集団式知能検査を踏まえた授業改善や個別支援で、十分な成果につながらなかった場合や、特別支援学校の就学を検討している場合は、個別式の知能発達検査（WISCや田中ビネー，新版K式等）の実施について検討しましょう。

地域の、個別式の知能発達検査が実施できる専門家等（スクールカウンセラーや病院などの関係機関）に係る情報を、市町村教育委員会や特別支援学校の特別支援教育コーディネーターに確認しておくことが大切です。

実施に際しては、保護者に、「本人の学び方を把握し、本人に合った支援を検討・実施したいので、個別式の知能発達検査の協力をお願いしたい」等の説明や依頼をし、必ず了解を得る必要があります。

検査の実施後は、授業改善や個別支援に生かすとともに、校内委員会や就学教育相談会等に提出する用紙に記入します。ただし、その数値のみをもって学びの場の判断はできませんので留意が必要です。

児童生徒の障害の状態等に応じた指導の工夫

【小学校・中学校学習指導要領解説（平成29年告示）から抜粋】

教科	校種	困難さ	指導上の工夫の意図	手立て	
国語	小学校	文章を目で追いながら音読することが困難な場合	自分がどこを読むのかが分かるように	教科書の文を指等で押さえながら読むように促す	
			行間を空けるために	拡大コピーをしたものを用意する	
			語のまとまりや区切りが分かるように	分かち書きされたものを用意する	
			読む部分だけが分かるように	自助具（スリット等）を活用する	
		自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが困難な場合	行動や会話文に気持ちが込められていることに気付けるように	児童の日常的な生活経験に関する例文を示す	
			気持ちの移り変わりが分かるように	文章の中のキーワードを示す	
	声を出して発表することに困難がある場合 人前で話すことへの不安を抱えている場合	考えながら発表させるのではなく、見ながら言葉で表現できるように	気持ちの変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示す		
		行動や会話文に気持ちが込められていることに気付けるように	① 紙やホワイトボードに書いたものを提示する。 ② ICT機器を活用して発表するなど、多様な表現方法が選択できるようにする。		
	中学校	自分の立場以外の視点で考えたり他者の感情を理解したりするのが困難な場合	文章に表れている心情やその変化等が分かるように	生徒が身近に感じられる文章（例えば、同年代の主人公の物語など）を取り上げて、 ① 行動の描写や会話文に含まれている気持ちがよく伝わってくる語句等に気付かせる ② 心情の移り変わりが分かる文章の中のキーワードを示す	
			考えながら発表させるのではなく、見ながら言葉で表現できるように	心情の変化を図や矢印などで視覚的に分かるように示す	
			自分の考えを表すことに対する自信がもてるように	① 紙やホワイトボードに書いたものを提示する。 ② ICT機器を活用して発表するなど、多様な表現方法が選択できるようにする。	
			声を出して発表することに困難がある場合 人前で話すことへの不安を抱えている場合	① 紙やホワイトボードに書いたものを提示する。 ② ICT機器を活用して発表するなど、多様な表現方法が選択できるようにする。	
地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合		掲載されている情報を精選し、視点を明確にして、読み取りやすくするために	① 地図等の情報を拡大する ② 見る範囲を限定する		
		その社会的事象の意味を理解し、社会の営みと身近な生活がつながっていることを実感できるように	特別活動などに関連付けて、具体的な体験や作業などを取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるようにする		
社会	小学校	学習問題に気付くことが難しい場合	社会的事象を読み取りやすくするために	写真などの資料や発問を工夫する	
		予想を立てることが困難な場合	見通しをもち、学習順序を考えられるように	ヒントになる事実をカード等に整理して示す	
		情報収集や考察、まとめることが難しい場合	考える際の視点が定まるように	見本を示したワークシートを作成する	
		中学校	地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合	掲載されている情報を精選し、視点を明確にして、読み取りやすくするために	① 地図等の情報を拡大する ② 見る範囲を限定する
			社会的現象に興味・関心がもてない	その社会的事象の意味を理解し、社会の動きと身近な生活がつながっていることを実感できるように	特別活動などに関連付けて、実際の体験を取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるようにする。
	学習上の課題を見いだすことが難しい場合		社会的事象等を読み取りやすくするために	写真などの資料や発問を工夫する	
	予想を立てることが困難な場合		見通しをもち、学習順序を考えられるように	ヒントになる事実をカード等に整理して示す	
	情報収集や考察、まとめることが難しい場合	考える際の観点が分かるように	ヒントが記入されているワークシートを作成する		
	算数・数学	小学校	「商」「等しい」など、日常使用することが少なく、抽象度の高い言葉の理解が困難な場合	具体的にイメージをもつことができるように	児童の興味・関心や生活経験に関連の深い題材を取り上げて、既習の言葉や分かる言葉に置き換える
			文章を読み取り、数量の関係を式を用いて表すことが難しい場合	数量の関係をイメージできるように	① 児童の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げる ② 場面を具体物を用いて動作化させる
解決に必要な情報に注目できるように				① 文章を一部分ごとに示す ② 図式化する	
空間図形のもつ性質を理解することが難しい場合			空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように	① 立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明する ② 見取図や展開図と見比べて位置関係を把握させる	
データを目的に応じてグラフに表すことが難しい場合		目的に応じたグラフの表し方があることを理解し、よりよい表し方に気付くことができるように	① 同じデータについて折れ線グラフの縦軸の幅を変えたグラフに表す ② 同じデータを棒グラフや折れ線グラフ、帯グラフなど違うグラフに表したりして見比べさせる		
中学校		文章を読み取り、数量の関係を文字式を用いて表すことが難しい場合	数量の関係をイメージできるように	生徒の経験に基づいた場面や興味ある題材を取り上げる	
			解決に必要な情報に注目できるように	① 印を付けさせる ② 場面を図式化する	
		空間図形のもつ性質を理解することが難しい場合	空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように	① 立体模型で特徴のある部分を触らせるなどしながら、言葉でその特徴を説明する ② 見取図や投影図と見比べて位置関係を把握させる	
	理科	小学校	実験の手順や方法を理解し、見通しをもって実験に参加することが難しい場合	学習の見通しがもてるように	① 実験の目的を明示する ② 実験の手順や方法を視覚的に表したプリント等を掲示したり、配布したりする
燃焼実験のように危険を伴う学習活動において、危険に気付きにくい場合			安全を確保するために	教師が確実に様子を把握できる場所で活動させる	
自然の事物・現象を観察する活動において、時間をかけて観察することが難しい場合			観察しやすいように	① 観察するポイントを示す ② ICT教材を活用する	

理科	中学校	実験の手順や方法を理解することが困難な場合	学習の見通しがもてるように	① 実験の操作手順を具体的に明示する ② 扱いやすい実験器具を用いる
		燃焼実験のように危険を伴う学習活動において、危険に気が付きにくい場合	安全を確保するために	教師が確実に様子を把握できる場所で活動させる
生活	小学校	言葉での説明や指示だけでは、安全に気を付けることが難しい場合	説明や指示の意味を理解し、なぜ危険なのかをイメージできるように	体験的な事前学習を行う
		みんなで使うもの等を大切に扱うことが難しい場合	大切に扱うことの意義や他者の思いを理解できるように	学習場面に即して、児童の生活経験等も踏まえながら具体的に考える
		自分の経験を文章にしたり、考えをまとめたりすることが困難な場合	児童がどのように考えればよいのか、具体的なイメージを想起しやすいように	① 考える項目や順序を示したプリントを準備する ② 事前に自分の考えたことを言葉や同y差で表現してから文章を書くようにする
		学習の振り返りの場面において学習内容の想起が、難しい場合	学習経過を思い出しやすいように	学習経過などの分かる文章や写真、イラスト等を活用する
音楽	小学校	音楽を形づくっている様子（リズム、速度、旋律、強弱、反復等）の聴き取りが難しい場合	要素に着目しやすくなるように	音楽に合わせて一緒に拍を打ったり、体を動かしたりして、要素の表れ方を視覚化、動作化する
		多くの声部が並列している楽譜など、情報量が多く、児童がどこに注目したらよいか混乱しやすい場合	注目する場所が分かりやすいように	拡大楽譜などを用いて声部を色分けしたり、リズムや旋律を部分的に取り出してカードにしたりして、視覚的に情報を整理する
	中学校	音楽を形づくっている様子（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）を知覚することが難しい場合	要素に着目しやすくなるように	音楽に合わせて一緒に拍を打ったり、体を動かしたりして、要素の表れ方を視覚化、動作化する
		音楽を聴くことによって自分の内面に生まれる様々なイメージや感情を言語化することが難しい場合	表現したい言葉を思い出すきっかけとなるように	イメージや感情を表す形容詞などのキーワードを示し、選択できるようにする
図画工作・美術	小学校	変化を見分けたり、微妙な違いを感じ取ったりすることが難しい場合	造形的な特徴を理解し、技能を習得できるように	① 児童の経験や実態を考慮して、特徴が分かりやすいものを例示する ② 多様な材料や用具を用意したり、種類や数を絞ったりする
		形や色などの特徴を捉えることや、自分のイメージをもつことが難しい場合	形や色などに気付くことや自分のイメージを持つことのきっかけを得られるように	自分や友人の感じたことや考えたことを言葉にする場を設定する
	中学校	形や色彩などの変化を見分けたり、微妙な変化を感じとったりすることが難しい場合	造形的な特徴を理解し、技能を習得できるように	① 生徒の実態やこれまでの経験に応じて、造形の要素の特徴や動きが分かりやすいものを例示する ② 一人一人が自分に合ったものが選べるように、多様な材料や用具を用意したり種類や数を絞ったり
		造形的な特徴などからイメージを捉えることが難しい場合	形や色などに対する気付きや豊かなイメージにつながるように	自分や他の人の感じたことや考えたことを言葉にする場を設定する
体育・保健体育	小学校	複雑な動きをしたり、バランスを取ったりすることに困難がある場合	苦手を軽減するために	① 動きを細分化して指導する ② 適切に補助をしながら行う
		勝ち負けに過度にこだわったり、負けた際に感情を抑えられなかったりする場合	活動の見通しがもてるように	活動の見通しを立ててから活動させる
			考えたことや思ったことをすぐに行動に移してしまわないように	勝ったときや負けたときの表現の仕方を事前に確認する
	中学校	見えにくさのため活動に制限がある場合	不安を軽減したり安全委実施したりすることができるように	① 活動場所や動きを事前に確認する ② 仲間同士で声を掛け合う方法を事前に決める ③ 音が出る用具を使用する
		身体の動きに制約があり、活動に制限がある場合	生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるように	① 用具やルールの変更を行う ② 変更について仲間と話し合う活動を行う ③ 必要に応じて補助用具の活用を図る
		リズムやタイミングに合わせて動くことや複雑な動きをすること、ボールや用具の操作等が難しい場合	動きを理解したり、自ら積極的に動いたりすることができるように	① 動きを視覚的又は言語情報に変更したり簡素化したりして提示する ② 動かす体の部位を意識させる ③ 操作が易しい用具の使用や用具の大きさを工夫する
		試合や記録測定、発表などの状況の変化への対応が求められる学習活動への参加が難しい場合	生徒の実情に応じて状況の変化に対応できるように	① 挑戦することを認め合う雰囲気づくりに配慮する ② ルールの弾力化や場面設定の簡略化を図る
		日常生活とは異なる環境での活動が難しい場合	不安を解消できるように	学習の順序や具体的な内容を段階的に説明する
		対人関係への不安が強く、他社の体に直接触れることが難しい場合	仲間とともに活動することができるように	ロープやタオルなどの補助用具を用いる
		自分の力をコントロールすることが難しい場合	状況に応じて力のコントロールができるように	① 力の出し方を視覚化する ② 力の入れ方を数値化する
		勝ち負けや記録にこだわり過ぎて、感情をコントロールすることが難しい場合	状況に応じて感情がコントロールできるように	① 事前に活動の見通しを立てる ② 事前に勝ったときや負けたとき等の感情の表し方について確認する
		グループでの準備や役割分担が難しい場合	準備の必要性やチームで果たす役割の意味について理解することができるように	① 準備や役割分担を視覚的に明示する ② 生徒の実情に応じて取り組むことができる役割から段階的に取り組ませる
保健の学習で、実習などの学習活動に参加することが難しい場合	実習の手順や方法が理解できるように	① 実習の手順や方法を視覚的に示す ② 一つ一つの技能を個別に指導する		

家庭	小学校	学習に集中したり、持続したりすることが難しい場合	落ち着いて学習できるように	① 道具や材料を必要最小限に抑えて準備する ② 整理・整頓された学習環境で学習する
		活動への関心をもつことが難しい場合	関心が高まるように	① 約束や注意点、手順等を視覚的に捉えられる掲示物やカードを明示する。 ② 体感できる教材・教具を活用する
		周囲の状況に気が散りやすく、包丁やアイロンなどの用具を安全に使用することが難しい場合	手元に集中して安全に作業に取り組めるように	個別の対応が出来る作業スペースや作業時間を確保する
技術・家庭	中学校	周囲の状況に気が散りやすく、加工用の工具や機器を安全に使用することが難しい場合	手元に集中して安全に作業に取り組めるように	① 個別の対応ができる作業スペースや作業時間を確保する ② 作業を補助するジグを用いる
		情報技術で、新たなプログラムを設計することが難しい場合	生徒が考えやすいように	あらかじめ幾つかの見本となるプログラムをデータとして準備して、一部を自分なりにかきりょうできようするなど、難易度の調整や段階的な指導を行う
		調理や製作などの実習を行う際、学習活動の見通しをもったり、安全に用具等を使用したりすることが難しい場合	学習活動の見通しがもてるように	個に応じて段階的に手順を写真やイラストで提示する
			安全への配慮を徹底するために	自習中の約束事を決め、随時生徒が視覚的に確認できるようにする
		グループで活動することが難しい場合	他の生徒と活動できるように	① 他の生徒と協力する具体的な内容を明確にして役割分担をする ② 役割が実行できたかを振り返ることができるようにする
外国語活動・外国語	小学校	音声聞き取りが難しい場合	外国語と日本語の音声やリズムの違いに気付くことができるように	リズムやイントネーションを、教員が手拍子を打つ、音の強弱を手を上下に動かすなどして表す
			本時の流れが分かるように	本時の活動の流れを黒板に記載しておく
	中学校	1単語あたりの文字数が多い単語や、文などの文字情報になると、読む手掛かりをつかんだり、細分に注意を向けたりするのが難しい場合	語のまとまりや文の構成を見て捉えやすいように	① 外国語の文字を提示する際には、字体をそろえたり、線上に文字を書いたりする ② 語彙・表現などを記したカードなどを黒板に貼る際には、貼る位置や順番などに配慮する
		発音と綴りの関係に拘って強い不安や抵抗感を抱いてしまう場合	学習のねらいに沿って安心して取り組めるように	その場で発音することは求めない
特別活動	小学校・中学校	相手の気持ちを察したり理解したりすることが苦手な場合	他者の心情等を理解しやすいように	① 役割を交代して相手の気持ちを考える ② 相手の意図を理解しやすい場面に置き換える ③ イラストを活用して視覚的に表す
		話を最後まで聞いて答えることが苦手な場合	発言するタイミングが理解できるように	事前に発言や質問する際のタイミングなどについて具体的に伝える
		学校行事における避難訓練などの参加に対し、強い不安を抱いたり戸惑ったりする場合	見通しがもてるように	各活動・学校行事のねらいや活動の内容、役割（得意なこと）の分担などについて、視覚化したり、理解しやすい方法を用いたりして事前指導を行う。 ② 周囲の児童に協力を依頼する。

「得意なこと、苦手なこと」シート的使用方法について



始良市教育委員会

「得意なこと、苦手なこと」シートは、児童生徒に、自分の得意なことや苦手なことを書いてもらい、教師が日頃の授業等に生かすためのアンケートです。児童生徒の多様な学び方を知り、一人一人に合った指導や支援を行う際の資料になります。

「得意なこと、苦手なこと」シートは、小学4年生以上の児童生徒に記入してもらうことを想定して作成しています。使用の際は、A3サイズに拡大してください。

回答してもらった後は、全ての児童生徒を対象に、教師が個別面談を行います。個別面談で大切なことは、児童生徒の思いを傾聴し、寄り添う姿勢で臨むことです。実施の仕方については、別紙「個別面談の方法(例)」を参照してください。「苦手」と回答があった児童生徒には、別冊「支援方法の例」を参考にして、どのような配慮があると安心して学習できるか、児童生徒と話し合っ決めてください。

「得意なこと、苦手なこと」

月 日 年 組 番号 名前 ()



あなたの得意なこと、苦手なことを
教えてください。あてはまるところを
一つ選んで○をかくてね!

	とても 苦手	少し 苦手	ふつう	まあ 得意	とても 得意
1 人の話を聞くこと。					
2 人と話すこと。					
3 文章（教科書や本）を読むこと。					
4 文字や漢字を書くこと。					
5 ノートに黒板を写すこと。					
6 計算をすること。					
7 作文や日記を書くこと。					
8 絵をかきこと。					
9 授業で習ったことを覚えること。					
10 人前で発表すること。					
11 家で宿題をすること。					
12 自分で計画を立てて行動すること。					
13 授業中、じっと静かに座っていること。					
14 いろいろな気にせず集中して取り組むこと。					

	とても 苦手	少し 苦手	ふつう	まあ 得意	とても 得意
15 約束やルールを守ること。					
16 人に手を出さず、ぐっと我慢すること。					
17 忘れ物をしないこと。					
18 片付けや整理整頓をすること。					
19 友達と活動したり遊んだりすること。					
20 ダンスや水泳、縄跳び等の運動をすること。					
21 手先を使って細かい作業をすること。					
22 楽器（リコーダーなど）で演奏すること。					
23 給食を食べること。					
24 教室内で聞こえる音。					
25 教室内において。					
26 教室内の電気などの光。					
27 自分を人に見られること（人の視線）。					
28 その他()					

ありがとうございます。得意なことがますます得意になるように、困っていることや苦手なことが少しでも減るように、先生たちも一緒に考えます。

個別面談の方法（例）

始良市教育委員会

- ※ 面談は、傾聴、共感、受容の姿勢で臨む。
 - ※ 面談を行う前に、児童生徒に、この面談は、成績や入試とは全く関係ないことを伝える。
- ① 「得意なこと、苦手なことシート」や「学校楽しいーと」等を提示しながら面談を行う。
 - ② 評価を高く付けていた項目について、具体的に何が得意なのか、どのようなところが好きなのかなどについて聞く。
 - ③ 評価を低く付けていた項目について、具体的に何が苦手なのか、何に困っているのかなどについて聞く。
 - ④ 本人なりに頑張っているが、どうしてもできないことはないか尋ねる。このとき、「努力が足りないのではないか」等と否定しない。
 - ⑤ 苦手なことや困っていることについて、どのような支援があるといいか尋ねる。また、「支援方法の例」を基にしながら、「こんな方法があるけど、どう？」と具体的な支援方法を提案する。
 - ⑥ 苦手なことや困っていることに対する支援方法を児童生徒と一緒に話し合っ決めて。「まずはその方法で1週間程度取り組んでみて、その結果について、また話を聞かせてほしい」と児童生徒に伝える。
 - ⑦ 解決が難しい場合は、スクールカウンセラーを紹介できることを伝える。

「とても苦手」「少し苦手」なことに對して



➡ 担任がすぐにはできる支援方法の例

		支援方法の例
1	人の話を聞くこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・文字で書いて伝える。 ・絵やイラスト、動画を用いる。 ・短い文で話す。
2	人と話すこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・一度紙に書いてから話をするようにする。
3	文章(本や教科書の文字)を読むこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・文節ごとにスラッシュを入れる。 ・定規を当て、読む行だけ見えるようにする。 ・指で押さえながら読むように伝える。 ・拡大コピーして読むようにする。 ・振り仮名を付ける。 ・プリントはUDフォントで作成する。
4	文字や漢字を書くこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・書くためのプリントは拡大して使用する。 ・升目の大きいノートを使う。
5	ノートに黒板を写すこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてとまとめだけを書くなど、書く量を調整する。 ・デジタルカメラに撮ってノートに貼る。 ・タブレットに入力する。
6	計算をすること。	<ul style="list-style-type: none"> ・升目を書いてあるプリントを使用し、位を揃えて筆算ができるようにする。 ・九九表を提示する。 ・計算の手順を提示する。
7	作文や日記を書くこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・5W1Hのヒントを示す。 ・書く内容を写真等で視覚的に示す。

8	絵をかくこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵描き歌のように描き方の手順を示す。 ・描き方の例を示す。 ・友達の真似をしてもいいことを伝える。
9	授業で習ったことを覚えること。	<ul style="list-style-type: none"> ・重要事項を書いて教室内に掲示し、いつでも確認できるようにする。 ・覚え方（語呂合わせなど）を教える。
10	人前で発表すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の話型を示す。 ・発表の順番を2番目以降にして、前の友達の発表を参考にできるようにする。 ・確実に正解できる内容を発表できるようにする。
11	家で宿題をすること。	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の量を調整する。 ・宿題する順番を伝える。
12	自分で計画を立てて行動すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・スケジュールを一緒に立てる。
13	授業中、じっと静かに座っていること。	<ul style="list-style-type: none"> ・紙を配るなど動いてよい係を設定する。 ・動きのある活動を取り入れる。
14	いろいろ気にせず集中して取り組むこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・黒板周囲の掲示物を精選する。
15	約束やルールを守ること。	<ul style="list-style-type: none"> ・約束やルールを事前に提示する。
16	人に手を出さず、ぐっと我慢すること。	<ul style="list-style-type: none"> ・深呼吸を教える。 ・クールダウンできる場所を決める。 ・先生に援助を求めるように伝える。
17	忘れ物をしないこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・持ってくる物のチェック表を作る。 ・自分でメモをとるように伝える。 ・付箋に書いて渡す。

18	片付けや整理整頓をすること。	・用具を入れるケースを準備する。
19	友達と活動したり遊んだりすること。	・少人数で楽しく過ごせる方法を探す。 ・1人で楽しむことができる活動を探す。
20	ダンスや水泳、縄跳び等の運動をすること。	・動作を区切って教える。 ・動画で繰り返し見て学べるようにする。
21	手先を使って細かい作業をすること。	・用具を工夫する。(くるんパス**等)
22	楽器(リコーダーなど)で演奏すること。	・用具を工夫する。(ふえピタ**等) ・演奏する部分を調整する。
23	給食を食べること。	・量を減らす。
24	教室内で聞こえる音。	・イヤーマフ*を使う。 ・テストを別室で受ける。
25	教室内のにおい。	・座席を窓側にする。 ・我慢ができないときは、教室を出て、外の空気を吸うことができるようにする。
26	教室内の電気などの光。	・座席の位置を変える。 ・サングラス等を使う。
27	自分を人に見られること(人の視線)。	・1人や少人数で過ごせる場所を話し合っ て決める。

※くるんパス：簡単に円を書くことができるコンパス。

※ふえピタ：リコーダーの穴を押さえやすくするために貼るシール。

※イヤーマフ：耳から入る音の大きさが軽減される防音保護具。